

〔言語文化部会〕

第一学年 国語科学習指導案

日時 令和三年九月二十一日(火)
場所 高山市立東山中学校一年A組教室
学級 一年A組(男子十九名・女子十二名)
授業者 紺谷 篤

一、単元名「心の動き」 教材名「星の花が降るころに」(安東みきえ)光村図書 一年

二、単元および教材について

中学校に入学して間もない一年生の生徒たちに対し、これまで「国語で表現された内容や事柄を正確に理解すること」に重点をおき、気になる言葉や表現に立ち止まって考えさせる習慣をつけさせようと、授業を行ってきた。具体的には同じ物語教材である「シンシュン」の学習を通して、主に心情描写と会話描写に着目し、登場人物の心情や関係の変化を捉える力を養ってきた。また、「比喩で広がる言葉の世界」では、比喩の効果とそれがもつ価値を認識するとともに、比喩を用いることで表現が豊かになることを学習している。

本教材は、中学生が主人公で学校生活を舞台とした文章であり、表現も今日的なものを含んでいる。生徒は親しみやすく、読みやすいと感じる作品であるといえる。また、友情を一つのテーマとしているが、結末がありきたりなものではなく、生徒自身に考える余地が残された表現になっている。描写として多彩な比喩表現を交えながら、主人公の心情が生き生きと表現され、他の人物との関係の変化も興味深い。自己の体験と照らし合わせながら、思春期の友情について考えを深めることのできる小説である。特に心情や関係を表現する描写とその効果を結びつけることで、言語感覚を豊かにさせ、日常生活にも活用することができると考える。そこで、主人公の心情変化を場面の展開と関連させながら読み深めた後、その後の物語の続きを書くという言語活動を設定した。作品の楽しさを味わいながら、生徒が主体的に読み進めることができる作品である。物語の続きを書くという単元を貫く言語活動を設定することで、場面の展開と登場人物の心情とを結びつけて正しく把握し、それを酌む必要が生じる。文脈の中での言葉の意味や、比喩などの表現の効果を結びつけながら作品を読むことで、作品のおもしろさを味わえることに気付かせたい。

三、生徒の実態

生徒たちは、四月当初、考えるときと話を聞くときの切り替えをなかなかつけれられず、思考が煩雑になることも多かった。しかし、現在は思考する時間と発表を聞く時間との切り替えもできており、仲間の意見を大切にする姿が見られるようになった。一方、発言内容に注目すると、まだ根拠が明確でない場合も多く、感覚的にしか心情を理解できていない生徒も多い。四月当初に行ったアンケート調査では、「国語の授業が好きか」という質問に「好き」「まあまあ好き」と答えた生徒は三十一人中十一人だった(うち二人未回答)。国語が苦手な理由として、「人物の気持ちは何となくわかるが、どこから読み取れたのか根拠がはっきりしない」が多かった。

これまでに「シンシュン」を通して、登場人物同士の会話や、描写を手掛かりにして心情を読み取る学習を行い、一定の描写を手掛かりに登場人物の心情を読み取ることができることを確認した。また、何をすべきかを教師側がはっきりと示すことで、見つけた描写表現を発表しようと積極的に挙手をして、授業に意欲的に取り組み生徒が多くなってきた。しかし、一つの描写から様々な捉え方を探ったり、他にも根拠となる表現を探したりするなど、主体的に学びを深めていくような姿が少ないのが現状である。これまでの授業を通して、学級の五分の程度の生徒は、初発の感想の時点で描写の効果について記述をしており、描写を手がかりに読み深めることができている。しかし、それ以外の生徒は表現に着目することもなく、書いていることをただ読んでいるだけになっている。また、そういった生徒は物語を読む際に着目するポイントがわかっていないため、教師の働きかけがないと学びを深められないという実態もある。

以上のように、言葉への自覚の低さや、主体性に欠ける実態があると考えている。そこで、本教材ではスクランブル交流の場を設定することで、自ら意見を伝え、仲間の意見を聞く回数を増やし、主体的に取り組む

っかけとしていきたい。また、そうして仲間と議論しながら考えを深めることで、言葉に立ち止まって考える価値や、言葉への自覚を高めたい。

四、「生きてはたらく言語能力」の育成について

中学校学習指導要領解説 「思考力・判断力・表現力等」「C 読むこと」(中) 第一学年より

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。

◎エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

前述した生徒の実態をふまえ、本教材では、「言葉への自覚を高めること」と「主体的に学ぶこと」の二点を大きな目的とし、この二点の達成を果たすことで「生きてはたらく言語能力」が育成されるものと仮定する。また、右記の二点の達成の過程には、正しいメタ認知力や粘り強く思考する力、よりよい考えを目指して試行錯誤する力の育成が伴われると考える。右記のような力は、本校の育てたい資質能力である「自分の現状を正しく認知し、知識や経験を活用しながら、よりよい表現や考えを導き出していく力」の中にも含まれている重要な力である。よって、初めに記述した二点の達成を目指すことは、本校の育てたい資質能力の育成にもつながると考える。

本教材では、学習指導要領第一学年「思考力・判断力・表現力等」の「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」を具体化し、「比喩や描写とその効果を検討しながら、決意をもって成長を遂げた主人公のその後を、意図的な表現や方法を用いて書く」という言語活動を位置づける。

物語の続きを書くためには、話の展開や登場人物の心情を正しく把握し、文脈の中での言葉の意味や、比喩などの表現の特徴と効果を正しく捉えながら作品を読むことが必要である。続きの話を書く目的に向かって、場面の展開や登場人物の心情に関わる描写を根拠として主体的に捉え、その解釈を互いに交流し、理解を深めるように指導していきたい。

こういった経験が、生徒が新たな作品に出会った時、自然と表現に立ち止まったり、その表現の効果について深く思考したりする姿につながり、生徒の読書生活をより豊かなものとするはずである。

なお、読むことの項目の具体化を目的としているが、この目的を達成するためには、言葉へのこだわり、つまり我が国の言語文化に関する意識の高まりが無くてはならない。言語文化に特化した実践ではなく、「読むこと」の目的達成の手段として「言語文化」の要素を含んだ実践であることをご承知いただきたい。

五、研究とのかかわり

研究内容(1) 指導計画の工夫

②生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発

単元の言語活動を設定し、その達成に向けて単位時間の言語活動を通して学習を進めることで、生徒は目的意識をもつて一単位時間の授業に取り組める。本単元では、「比喩や描写とその効果を検討しながら、決意をもって成長を遂げた主人公のその後を、意図的な表現や方法を用いて描く」という言語活動を設定した。生徒たちはこれまでの学習の中で、話の続きを書くという活動は経験していない。よって、新鮮な気持ちで活動に臨めると共に、言語活動をゴールと見たときに、描写に着目して登場人物の心情を丁寧に読み取ること、必然性が生じると考える。

研究内容(2) 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

■主体的な学び

単元指導計画のゴールの言語活動を物語の続きを書くことに設定したことに加え、単位時間内では、複数ある表現の中から自分が最も気になるものを選び取って追究し、考えられるようにした。適宜同じ表現について思考する仲間と自由に交流することをよしとし、生徒の活動の選択肢を広げた。そうすることで、学習の自由度が高まり、必要に応じて仲間と相談したり、一人でじっくり考えたりと、まさに主体的に考えられるのではないかと考えた。

なかなか一つの表現に立ち止まって思考することが習慣づいている生徒は少ないが、このように選ぶとった

表現について自分なりに考えをまとめることを繰り返すことで、本校の育てたい資質・能力にもあるように、自然と知識や経験を活用しながら想像力を大いに働かせ、主体的に取り組むことができる。また同時に言葉へのこだわりも生まれると考える。

■対話的な学び

自分が追究したいと思った表現について、適宜自由に仲間と話し合いながら課題追究をする。何を誰に尋ねるのかは、生徒に委ねられる。自分が何がわからなくて何を必要とするのかを明らかにすることは、本校で育てたい資質・能力の「自分の現状を正しく認知」することにつながる。対話的な要素をもたせることで、メタ認知の向上にもなり得ると考える。追究のイメージとしては、①個人追究を行う、②考えることに行き詰まったり、疑問点が生まれたりしたとき、仲間に積極的に尋ねる、③個人追究がひと段落した頃、疑問点について意見を聞き合う状況から、考えを交流し深め合う様子へと変化し、活発な話し合いとなる。

■深い学び

本時のねらいは、物語の続き文を書く時のために、二場面内の比喩や描写を根拠にして、その効果を検討しながら、心情や様子を読み深め、書きまとめることにある。たった一つの表現からも多様な読み取りの仕方ができることを実感できるようにし、表現に立ち止まって思考することの価値に気付かせたい。ねらいの達成度は、終末に行くまともめをもとに評価したい。本時には直接の関わりはないが、本時で表現に立ち止まって思考したことが、単元の終末でよりよい表現や考えを導き出していく手掛かりとなる。

研究内容(3) 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫

観点を与えた上でまともめを書かせることとする。単位時間の中では、終末のまともめにおいて、次の二点をもとに記述させる。「①描写の効果について学んだこと」・「②対話を通して読むことに対して気付いたこと」。上記のような観点を与えることで、主体的に表現に着目しながら読むことや、言葉に立ち止まって読み深めることに関する自分の成長を実感させられると考える。

単元を通しては、書いた物語の続き文を、「一部分でも描写・表現を意識して書く工夫が見られるかどうか」という観点で評価する。ただ物語の続きになっっているかどうかではなく、比喩を交えたり意図的に言葉を選択したりしているかを見ることで、単元を貫く課題を達成させるとともに、生徒が言葉にこだわって読むことを身に付け、自信をもつて読み深めることができるようになる。と考える。

また、自分なりの続き文が書けたかどうかという点も評価する。自分なりの作品を書き上げることができたという事実から、生徒たちは自分の成長を実感することができる。と考える。

六 単元構想図 1年生「星の花が降るころに」(全6時間)

【第1学年【思考力・判断力・表現力等】「C 読むこと」(中)ウ
ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。

◎エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

【本単元で身に付けたい資質・能力の系統】

小高：登場人物の相互関係や心情などについて描写を捉える能力。

1年：描写と表現技法の効果とを結びつけて読む能力。

【「読むこと」における子どもの実態】

これまでに「シンシュン」を通して、登場人物同士の会話や、言葉を手掛かりにして心情を読み取る学習を行い、一定の描写を手掛かりに登場人物の心情を読み取ることができることを確認した。しかし、自分から他にも根拠となり得る文を探すなど、主体的に追究するまでには至っていない。また、言葉の意味を進んで調べたり、一つの描写から様々な捉え方を探ったりする姿も少なく、言葉への自覚の低さが見られる。そこで、本教材では表現や言葉の少しの違いで表現される微妙なニュアンスの違いに着目させながら、仲間と議論する活動を多く設定することで、言葉に立ち止まって考える価値に気づかせ、言葉への自覚を高めたい。

【育成すべき資質・能力とのつながり】

物語の続きを書くという単元末の言語活動に向けて、登場人物の心情の変化や比喻などの特徴的な表現に着目して読むことで、言葉への自覚が高まると考える。

また、1つの表現について立ち止まって試行錯誤したり、よりよい物語の続き文を書いたりする中では、自分の学習状況を把握し、既習事項を活用したり、もっと的確な表現を探したりすることが求められる。上記のような姿が生まれたとき、東山中学校で育成すべき資質・能力を育むことができたと捉える。

【単元を貫く言語活動】

比喻や描写を根拠にして、その効果を検討しながら、心情や様子を読み深める。

【本単元の評価規準】

<知識・技能>

文脈の中での言葉の意味や比喻などの表現の特徴と、効果をとらえることができる。

<思考力・判断力・表現力>◎

登場人物の行動、情景描写や言葉を手掛かりに、登場人物の心情やその変化を読み取っている。

<主体的に学習に取り組む態度>

言葉の使い方などについて進んで自分の意見を買いまとめたり、調べたりしている。

■表現に着目し、主人公の思いに迫る。

第3時(本時)

【ねらい】

二場面の私の心情を心情曲線のもとに読み取ることを通して、比喻表現や心情描写などの効果に気づき、「私」の心情曲線が大きく落ち込んだことを捉えることができる。

【評価規準】

第二場面での「私」のショックが大きいことを描写や言葉を手掛かりに捉えている。【思・判・表 C(1)エ】

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】

「私」の心情の変化を読み取るために、言葉の意味や描写に立ち止まって思考する姿。

第4時

【ねらい】

「戸部君」に対する「私」の見方や考え方の変化や、そのきっかけについて、根拠をもとにまとめることができる。

【評価規準】

第二場面と三場面で「私」が「戸部君」に対してもっていたイメージを比べ、変化したきっかけに気づいている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】

「私」が「戸部君」に対してもっていたイメージがどのように変化しているのかをまとめる姿。

第5時

【ねらい】

最初と最後の「銀木屋」に関する描写から、「私」の心情がどのように変化したのかを読みとることができる。

【評価規準】

「銀木屋の花」を捨てて、「木の下をくぐって出た」ことが、「私」の決意や成長を表していることに気付いている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】

最初の回想シーンと、四場面での「銀木屋」の違いを読み取り、「私」の心情の変化を書きまとめる姿。

第2時

【ねらい】

場面ごとでの心情の変化に注目しながら、心情曲線を描くことができる。回想シーンから「私」と「夏実」の関係を読み取ることができる。

【評価規準】

情景描写に着目し、季節や時間、場所、心情を読み取っている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】

場面の展開に気を付けながら、心情曲線を描く姿。

■学ぶ目的と必然をもつ。

第1時

【ねらい】

本文を通読し、感想を交流することで、学習の見通しをもつことができる。

【評価規準】

印象に残った場面や言葉を具体的に取上げて感想を書いている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】

自分の考えと比べながら感想を交流し、考えを深める姿。

【単元を貫く課題】

作家になりきって比喻や描写の効果を検討しながら、自分なりの表現で物語の続きを書こう。

【育成すべき資質・能力に関わる本単元の具体的な姿】

文脈の中で使われている語句の意味を捉え、描写と表現技法の効果とを結びつけて読んだり、仲間と検討したりすることで、「言葉に立ち止まって」考えられる姿。

【東山中の生徒に育成すべき資質・能力】

自分の現状を正しく認知し、知識や経験を活用しながら、よりよい表現や考えを導き出していく力

■これまでの展開をふまえて、物語の続きを書く。

第6時

【ねらい】

比喻や描写とその効果を検討しながら、決意をもって成長を遂げた主人公のその後を、意図的な表現や方法を用いて描くことができる。

【評価規準】

新たな気持ちで踏み出した「私」の心情踏まえて、比喩的な表現や、前向きな書き方をしている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】

これまでの単元の学習をふまえ、物語の流れをふまえた上で自分なりの工夫を加えながら、続き文を書く姿。

【単元末の子どもの意識】

言葉に立ち止まって考えると、登場人物の心情が前よりよく分かった。「私」の心情描写の「今日“こそ”仲直りをしよう」の「こそ」や、「夏実も待っている“はず”だ」の「はず」など、例え短い一言であったとしても、その一言にこだわるのが大切だと学んだ。物語の続きを書くことも初めてだったが、作者の書いているような比喻の特徴に似せて書くこともできてよかった。今後も積極的に言葉の意味を調べたり、どんな思いがこもっているか丁寧に読んだりすることで、作品の素晴らしさを味わいたい。

【導入時における子どもの意識】

主人公と夏実の関係が変化していることは読み取れたが、どこから読み取れたのか根拠がはっきりしない。どんな描写にどんな効果があるのだろう。しっかりと物語の続きを書くために、今までの物語の読み取りよりも言葉に立ち止まってじっくり考えたい。

七、本時のねらい

心情曲線と描写を結び付けて読み取ることを通して、比喩表現や心情描写などの効果に気づき、夏実とのよい関係が崩れてしまったことで悲しむ「私」の心情を捉えることができる。

八、本時の展開(三／六)

教師の働きかけ	学習活動	研究内容に関わって
・一場面の回想シーンからは、主人公と夏実が親密な関係であったことが分かりました。 ・こんなにも曲線が急降下するのはなぜなのでしょう。 ・「比喩などの表現から主人公が悲しんでいることがわかる」という意見が出ましたが、そのような表現を使うことでどんな効果が生まれるかな？ ・仲間と意見交流しながら、さらに考えを深めてみましょう。仲間の意見を取り入れてもいいです。 ・〇〇グループのところへ行ってみたら？ ・回想場面での二人の関係と比べて考えてみましょう？ ・では、課題に対するまとめをワークシートに書きましょう。これまでと同じように、「①描写の効果について学んだこと」・「②対話を通して読むことに対して気付いたこと」についてまとめを書きましょう。 ・比喩などの表現技法や、体・景色・心に関する描写と効果に注目しながら読み取る姿が素晴らしいかったです。みなさんが言葉に立ち止まって読み取ったような表現の工夫によって、心情がどんな底まで下がってしまったことがはつきりと読み手に伝わるのですね。	◇これまでの学習を振り返る。 ・心情曲線を元に、回想シーンから第二場面にかけて心情が急降下していることを確認する。 ◇単元を通じた言語活動や既習事項をもとに、課題をつかむ。 なぜ心情曲線は大きく下がったのだろうか。 ◇描写と効果を根拠にししながら自分の考えをまとめる。 ・音のないこま送りの映像を見ているように」のところから、ショックでひどく呆然としていることが伝わる。 ↓ 比喩 ・「音のない」からはしーんと静まり返った寂しい印象を受ける。 ・「こま送り」からは不自然なくくとした動きが伝わる。 ◇仲間と交流しながら理解を深める。 ・「騒々しさがやつと耳に戻った」…ショックでぼーっとしている。「唇が震えている」…落ち着かず気が動転している。「目のふちが熱い」…泣きそうになるくらいショック ↓ 体に関する描写 ・「色が飛んでしまったみたい」…白黒で感情がない感じ。 ↓ 景色に関する描写 ・「白々とした光景によく似ている」…真っ白で何も無い。 ↓ 心情に関する描写 ・「のに。夏実の他には友達とよびたい人なんて誰もいないのに。」 仲直りしようとした描写とつなげて読む ・「今日こそ仲直りをしよう」から、強く意気込んで話しかけたことが分かる。その分無視されたときのショックは大きいはず。 ・「夏実も待っているはずだ」とあるから、話しかける前は仲直りできると期待していた。 ・回想場面では、二人で木の真下に立って長いこと見上げていたので、そこと比べてみると、よい関係が崩れてしまったことがわかる。 ◇根拠とした描写や効果を全体で交流する。 ・「夏実」との世界を大切にしていた「私」の世界がこわれてしまった。だから線はどんな底まで下がる。 ◇描写の効果について半んだことと対話を通して気付いたことと関連してまとめを書く。 ●「目のふちが熱い。」というところから、「私」がショックを受けていたことを読み取ったが、〇〇さんの「色が飛んでしまった」という意見を聞いて、色の表現からも「私」がかなりショックを受けていることを読み取れることが分かった。この表現は、色と共に感情がストップしてしまったことを読み手に伝える効果があり、「私」のショックを最も印象強く表していると思ったし、こういった表現が多く書かれているため、私たちの書いた心情曲線が大きく下がると思った。	●研究内容(1)(2) ・「作家になりきって比喩や描写の効果を検討しながら、自分なりの表現で物語の続きを書く」という活動を意識させ、「①描写の効果について学んだこと」・「②対話を通して読むことに対して気付いたこと」という観点でまとめさせる。 ●研究内容(3) ・「作家になりきって比喩や描写の効果を検討しながら、自分なりの表現で物語の続きを書く」という活動を意識させ、「①描写の効果について学んだこと」・「②対話を通して読むことに対して気付いたこと」という観点でまとめさせる。 ●研究内容(1)(2) ・主體的に学ぶ姿を生むため、教師が合図をしてからは適宜自由に席を移動し、気になった表現について仲間と意見を練り合えるようにする。 ●研究内容(3) ・「作家になりきって比喩や描写の効果を検討しながら、自分なりの表現で物語の続きを書く」という活動を意識させ、「①描写の効果について学んだこと」・「②対話を通して読むことに対して気付いたこと」という観点でまとめさせる。 ●研究内容(1)(2) ・「私」の気持ちの落ち込みが大きいことを描写や言葉を手掛かりに捉えることができる。(発言、ノート) 評価規準【思・判表 C(1)E】